

令和6年度 福生市立学校 学校経営方針

学校名 福生市立福生第三小学校

校長名 浅倉 宏之



教育目標

- ◎よく考え やりぬく子 【確かな学力、粘り強く学びに向かう力】
- 思いやりのある 心豊かな子 【自己肯定感、人間関係形成力】
- 進んで体をきたえ 健康な子 【主体性、基礎身体能力】

1 目指す特色ある学校像

「学校大好き、友達大好き、先生大好き」を教育活動推進のテーマとし、学校・保護者・地域が協働して、心豊かな児童を育む学校。

- 安心・安全・快適な学校
- 所属職員が研鑽し合う学校
- コミュニティ・スクールとして、保護者・地域と連携協力する学校
- 伝統文化を大切にし、郷土愛を深める学校

2 学校経営の目標

(1) 中期的目標

①確かな学力の向上

学力調査の結果分析や児童の実態に基づいた授業改善を推進し、各教科等の基礎的・基本的な内容を確実に定着させ、思考力、判断力、表現力の育成を図る。

②豊かな心の育成

全教育活動を通して、児童自身の良さや価値に気付かせる取組を推進し、より良く生きていくための基礎となる自己肯定感・粘り強く学びに向かう力を高める。

③健やかな体の育成

健康の保持・増進と体力向上の取組を行い、進んで体を鍛え健康な児童を育成する。

(2) 本年度の目標

①ぐんぐん学力プロジェクト

ア ユニバーサルデザインにも続いた学習環境の構築、学習規律の徹底を図り、学習への基本的な姿勢を確実に身に付けさせる。

イ 学びに向かう力や家庭学習・読書に取り組む習慣を身に付けさせる。

ウ 授業力、学級経営力の向上に努め、学習の基礎・基本の定着を図る。

エ 主体的、対話的に学びながら自分の考えを広げ、深めさせる。

②わくわくふれあいプロジェクト

ア いじめや偏見・差別をなくし、自己肯定感や自尊感情を育むために「特別の教科 道徳」の充実を図る。

イ 学校教育の充実に向けて、保護者や地域と一体となった教育活動を推進する。

ウ 特別支援教育を必要とする児童の理解と具体的支援の充実を図る。

③いきいき元気プロジェクト

ア 運動する楽しさを知り、進んで運動に親しむ意欲と、目標をもち挑戦する心を育てる。

イ 折れない心、諦めない心を育てる学級経営・教育活動を充実させる。

ウ 教育活動全体を通して自己肯定感を育てる。

3 目標達成に向けての課題

- (1) 基礎学力と家庭学習習慣の定着。
- (2) 特別支援教育への理解。
- (3) 「主体的、対話的で深い学び」を実現するための授業改善。
- (4) ICT機器を効果的に活用し、確かな学力を定着させる授業改善。
- (5) 教員の学級経営力や児童理解に関する力のさらなる向上。

4 経営の具体策

(1) ぐんぐん学カプロジェクト

- ①ユニバーサルデザインに基づいた学習環境を整え、「ふっさっ子スタンダード」による授業規律の定着を図る指導を全学級で徹底する。
- ②確かな学力、学びに向かう力の向上を図るため、学力調査等の結果を分析し授業改善に生かす。
- ③ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進する。
- ④基礎・基本の定着を図るために、朝学習の指導内容を児童の実態に合わせた計画を立てて行う。
- ⑤読解力、語彙力を付けるために、詩の暗唱、読み聞かせや読書旬間、宿題読書の充実等、本に親しむ活動計画を実践する。
- ⑥特別支援教育への理解を深めるため、やまなみ教室の授業参観を増やし、連携を強化する。
- ⑦学びに向かう力の育成のためのスタートカリキュラムを適切に展開し、幼保と連携した取組を充実させる。
- ⑧義務教育9年間の連続性を考慮した中学校区の取組を推進する。

(2) わくわくふれあいプロジェクト

- ①各学期の初めにいじめ防止の授業を行い、道徳的判断力や望ましい人権感覚を醸成する。
- ②生活指導上のきまり「よい子の生活」の徹底を図り、規範意識を育てる。
- ③より良い学級集団を築くため学級会活動の活性化を図り、縦割り班活動やクラブ活動、委員会活動等での異年齢・異学年交流を充実させた特別活動の取組を展開する。
- ④伝統として伝わる和太鼓、藍染めを通じた地域との関わりを通して、愛校心やふるさと福生への誇りを培う。

(3) いきいき元気プロジェクト

- ①運動に親しむ態度を育て、体力の向上を図るために、持久走旬間や持久走大会、縄跳び週間の取組を行う。
- ②歯磨き指導等を通し、望ましい生活習慣の知識と技能を身に付けるとともに、進んで自身の健康について考え、良い習慣を実践できる指導を、体育・保健教育において推進する。

(4) 人材育成

- ①組織を意識させ、各主任を中心としたリーダーシップとフォロワーシップの意義を指導する。
- ②学校でのあらゆることがOJTであることを意識させ、運営組織力向上を図るとともに、次世代のリーダーを育成していく。

(5) 家庭・地域

- ①学校支援コーディネーター、学校ボランティア等による教育活動支援の一層の充実を図る。
- ②コミュニティ・スクール委員会との連携をさらに強め、算数検定等の協働事業を推し進める。

5 年度末のチェックポイント

- 学力調査の結果（市の平均以上） ○自己肯定感に関する肯定的回答（90%以上）
○学校評価（関係者アンケート）の肯定的な回答（85%以上）